



平成27年度「環境活動演習」(学域・学部) アンケート結果

履修者数：37名

回収枚数：34枚 (回収率：92%)

アンケート実施日：平成27年11月14日(土) ---合同発表会開催日

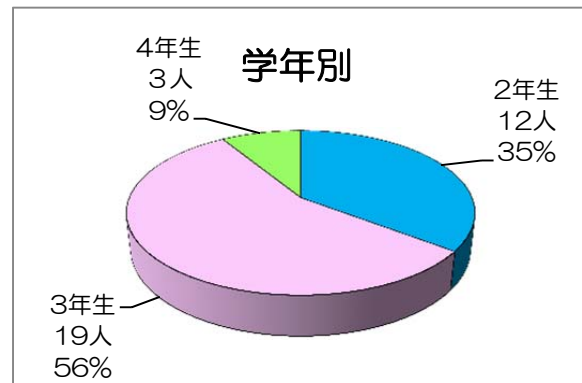
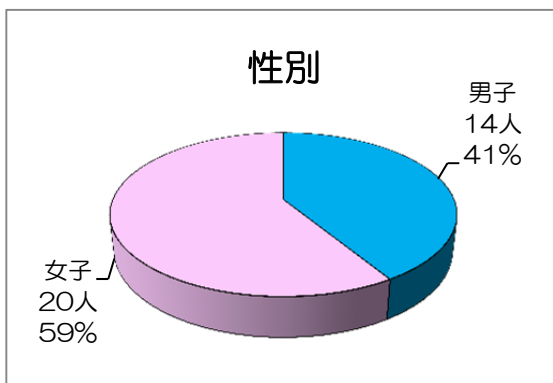
1. 所属別履修者数

① 性別

	工学域・工学部	生命環境科学域・ 生命環境科学部・ 理学部	現代システム科学 域・経済学部	地域保健学域・ 人間社会学部	計
男	2	2	10	0	14
女	0	6	13	1	20
計	2	8	23	1	34

② 学年別

学年	工学域・工学部	生命環境科学域・ 生命環境科学部・ 理学部	現代システム科学 域・経済学部	地域保健学域・ 人間社会学部	計
2年	0	4	8	0	12
3年	2	3	13	0	19
4年	0	1	2	1	3
計	2	8	23	1	34



2. 副専攻「環境学」の『環境活動演習』を終えて、いかがでしたか。

期待どおりだった	25名
期待とは違った	9名

3. 全体的な感想

- ◇ 通常授業では出来ない、子どもとのイベントなどが出来てよかった。実際の子どもの認知度が思ってたより低いが、興味を持って参加してくれて、実際に作業できてよかった。
- ◇ 他の活動をしていく上で真似すべき点と改善すべき点を学ぶことができた。
- ◇ 府大という身近な場所を舞台に環境活動を行うことができてよかった。参加者に環境（樹木）に対する知識を深めてもらうだけでなく、自分達も学ぶことが多くためになった。全体としてグループ内で協力して準備から本番まで楽しく行うことができた。
- ◇ 環境活動を通して、グループのメンバーと協力して、活動するのが大変だった。
- ◇ 子供に向けての環境教育がやりたかったので期待通りでした。
- ◇ 環境問題を新しい視点から考えるきっかけになったが、演習ということで外に出て活動すると思っていたが、自分の班はほとんどなかった。
- ◇ 最初に考えていたものとは、異なったものの、「自分達で考え、動く」「多くの人と実際に話をする」「グループで動くことの経験を積む」など、多くのことを体験できた。
また、私達が学ぶ以外に、市民にアンケートを通して、啓発、市に還元できて良かった。
- ◇ グループで環境活動を行う科目は初めてであり、研究室のゼミのような感じでよかった。
- ◇ もっと持続可能開発に関連した内容、スキルアップにつながると思っていた。しかし、身につけたいと思っていた力とは別の力、（1つの問題を考えるにあたり、予測→実践の大切さ、街頭調査のコツ、etc・・・）を身につけることができた。
- ◇ グループワークでは一人ひとりが積極的に意見を出し合い、こまめに情報共有をすることができていたので、充実した活動だった。また、学生ならではの活動を行うことができ、貴重な経験をすることができた。
- ◇ 実際に環境教育を行う立場に立つことができ、教える側の責任や、十分な知識を備えている必要があると感じた。
- ◇ 良い意味で期待とは異なりました。想像よりも自分達で自発的に活動を進める手が多く、グループ皆で進める事ができたので良かったです・・・他1名
- ◇ 実際の活動を通じて環境意識を養成するのは本だけ読むことより効果的だと思います。勉強になりました・・・他1名
- ◇ 普段はできない実践的な環境活動を経験することができて良かった・・・他1名
- ◇ 昨年度と似たようで、でもオリジナルのワークショップを行うんだ、と驚いたのが素直な意見です。外部の方とメールにて連絡をとりあい、一緒に活動をさせていただいたので、外渉の経験ができたのは大きかったです。とても貴重な授業でした。
- ◇ 講義を通して学んだことを活かしながら、活動に取り組むことで、講義では学べなかったことを学ぶことができたと思います。
- ◇ 自分たちで企画・計画・準備したイベントを実行することができ、環境という枠を超えて多くのことを学ぶことができた。
- ◇ グループワークの訓練になった。
- ◇ 参加日程が通常の授業よりも少なく、融通がききやすかったので、就職活動と平行して行いやすかった。
- ◇ 自由度の大きい科目であり、活動にはとても満足している。

- ◇ ディスカッションイベントを通し、昆虫食に対する意見の共有につながったと考えられる。また、教員から提示されたテーマにはあまり興味がなかったため、4月の時点、テーマを選ぶのに困った。だが、昆虫食に関わって楽しかった。
- ◇ 普通の授業よりもより実践的で身になった。
- ◇ 調査そのものよりもわかりやすく伝えられるように発表を組み立てる事の方が難しいと思いました。もちろん調査そのものも思うような資料が見つからないなど困難な点もありました。
- ◇ もっと難しいことをさせられるのではないか、テーマを決めるのももっと勉強のようなものをしていなければならないのかとと思っていたが、自由でのびのびとでき、「環境学」というものが幅広いものを扱っていると知ることができた。
- ◇ それぞれしっかり発表ができており、よかったと思う。
- ◇ 昆虫食について、詳しくなりました。

4. 環境に対する意識の変化

大いに 変化した	9名	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ため池について調査したために、身近なものでも環境的視線で考えることができるようになった。・・・他2名 ◇ 子供からの質問から自分には樹木の知識が足りないということに気付かされたので、もっと樹木についての知識が必要だなと感じました。 ◇ 実際に市役所（環境先生課、農林水産課）やJA、農家の方に、現状を伺うことで、私自身の知識向上と意識向上につながった。 ◇ 実際に聞き取りをすることで、環境における地域間の意識差や行政においても、組織上、環境のために動くことが困難であることがわかり、環境教育の必要性が強く感じられた。 ◇ 今回の演習では、対象を低学年に当て、環境問題の現状を改めて確認しつつ、早急な改善が必要だという意識が強まった。 ◇ 自分たちは大学では環境について学ぶ側であるが、今回、子どもたちに環境について教える側になったことで、以前よりも「伝えること」や「知ってもらうこと」に対する意識が高まりました。
少しだけ 変化した	22名	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境への意識は人によって大きく異なることが分かり、共通認識をもつことが重要だなと思いました。 ◇ 自然に生育する植物を利用するという観点が得られた。 ◇ 私は樹木に関する知識があまりなかったが、この演習を通じて樹木への関心が高まり、身の回りの樹木をよく観察するようになった。 ◇ 生態系の多様性の維持を考えるためには、思っている以上に解決すべき問題点があることがわかった。 ◇ 普段の生活では、接することはないが、身近にある環境に以前より少し目を向けることが増えた。 ◇ どうしようという意識はまだ強くないですが、具体的にいろいろな方面（視点）から環境についての考え方が勉強になりました。 ◇ 一般、地域の方との知識、意識の差がある中、どう考えるか、話すか、生物の面からの環境の関わり方を考えるきっかけとなった。

		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 環境に対する意識というよりは、環境教育活動に対する意識に変化があったと言えます。どのような伝え方をすれば、子供たちにも理解してもらえるか、難しい言葉はどのようにすれば誤弊なく伝えられるか、といったことを考える困難さを知りました。 ◇ 授業で専門科目として習う内容を、学外の子どもたちに伝えることで、内容の再理解ができました。自分が知るだけでなく、他の人へ知らせなければ環境学を学ぶ意義は半減するよう感じました。 ◇ 環境という形のないものを多くの人（特に子ども）に伝えるために、自分たちが今まで以上に理解する必要があったので、環境に対してより意識が高まったと思う。 ◇ ため池に対する愛着がわいた。 ◇ 活動的内容的には、「行いたい」とかねてより考えていたとおりできたので意識の変化は特にはないが、環境に関してたくさんのフェアや活動があることを知らなかったので驚いた。 ◇ 日常生活の何気ない物事についても気にするようになった。 ◇ 大きな変化はなかったが、今までよりも身近な生活においても環境について考えるようになった。 ◇ 自分だけではなく、他の人々の活動内容も聞け、環境への様々なアプローチを知った。 ◇ 啓発を子供に促すものを作るには、自分自身が興味を持って、動かなければならず、その中で自分が意識するようになった。 ◇ 環境というより、特に自分が今回扱うことになった昆虫食というものに対して少し偏見がなくなり、そういったものもあるということを受け入れようという気持ちが生まれた。 ◇ 様々な角度から環境について考えられると分かった。
あまり変化しなかった	3名	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 元々環境に対して強く意識していたため。 ◇ 学類で学んだ環境に対する知識とは、環境活動演習の内容は分野が異なったため。

5. 大学院の環境人材育成教育プログラム「国際環境活動プログラム」の履修も目指しますか。

履修したい	1名
大学院には進学するが履修しない	0名
学域で卒業して就職する	14名
決めていない	17名
その他	2名

その他について

- ◇ 興味はあります。
- ◇ 履修したいが、他大学大学院にて、国際環境活動に関連する研究を行いたいと考えている。

6. 改善すべき点や気付いた点

- ◇ 府大ではなく、情報プラザで行うことは、メリットとデメリットの両方があるなと思います。メリットとしては、大学という限られた環境内ではなく、より社会に近い世界を知ることが出来、デメリットとしては、生徒間でのスケジュールが合わせにくく、同じグループでの協力が難しかったです。なので、今後の「環境活動演習」の目的に合わせて変更したらいいかなと思います。
- ◇ 発表の準備が当日までかかってしまったのでもう少し前もって行動するべきだと思った。・・・他1名
- ◇ 樹木の説明などを先生にしてもらおうのではなく自分達で勉強し知識をつけて自分達が授業をできればもっとよかったかなと思った。
- ◇ フィールドワークが少なかったので、どの班も取り入れてほしい。
- ◇ 土曜日固定ではないこと、グループで話し合い、日程調整できることをもう少し学生に知ってもらえると、今後の「環境活動演習」受講者が増えるのではないか。
- ◇ 改善について、大学内で活動の打ち合わせを行う場所が「ラーニングcommons」以外でとることが難しかった。
- ◇ 4月に始まり、11月に発表という形でまとめるという短い期間では、丁度調査が軌道にのった所で活動をまとめていかなければならず、出来る活動が狭められてしまった。
- ◇ 今回、中途半端なところで終わってしまい、最後まで続けたいと思ったので、テーマが次年度でも引き継がれることができれば良いと思った。
- ◇ 演習ということもあり、学外へ赴く機会があることは貴重だと感じた。普段、関わることのない小学生との交流は新鮮に感じた。
- ◇ 環境活動演習を通じて、自分達で自発的に調べたり、コミュニケーションをとって話し合ったりする事で、一人ではなくグループで取り組む事の楽しさ・難しさを感じ、グループ活動の大切さに気付きました。学生主体で進める演習は良いと思いました。
- ◇ 毎年、行う活動を変えるのではなく、前年度の活動を引き継ぎ、発展系の活動、調査を行うことでよりよい結果が見えて、面白いものになるのではないかと感じました。
- ◇ チームでは一つの視点から出発し、イベントを通じて実践していたが、もし一回でも中間ディスカッションのようなことがあったり、意見などが他のチームからいただけたらもっと勉強になると考えています。・・・他1名
- ◇ 受講者の連絡手段、意欲で左右される受講者の意思を反映できる活動をする工夫。
- ◇ 学年や学域が違う人が多いと日程を調整するのが難しかった。
- ◇ 教授と予定が合わせづらく、生徒だけで出来ることは勝手に進めていって、教授の手を借りないと出来ないことは頼る、といった形での進行となってしまう、この演習は生徒たちだけで進めていくものなのかと思いました。(他班はミーティングに先生がいらっしゃったと聞いたので、このようなことを書かせていただきました。)
- ◇ 昨年、台風で参加できなかった方が今年参加を楽しみにして下さったことや、アンケート結果から見ても、りんくう公園でのイベントは今後も継続的に行っていくとよいと感じました。学外での取り組みを行うグループが多く、その点では外部の、一般の方へ知識の普及ができたのもっと増やすことができると良いのかなと思いました。
- ◇ 初日オリエンテーションの詳細(日程、場所、時間等)を学生ポータル等でも記載してほしかった。普段、羽曳野キャンパスにしか行かないので、掲示では確認が難しい。進め方については、グルー

ブワークであり、少人数で日程調整もしやすく、また先生から丁寧なご指導をしていただけて、良かったです。発表で他のグループや院生の方のものも知れたことも良かったです。

- ◇ 私たちは外でのイベントを実施したので、天候が心配されましたが、無事晴れて行うことができました。しかし、去年は台風で流れてしまったこともあり、そういう面は少し心配だと思った。
- ◇ 先生が上手に誘導してくれた。
- ◇ 農作業を通した環境活動演習があれば参加してみたかった。
- ◇ 自由度が高く、学生だけでほとんどを行うということに、驚いたが、自主性が養われた点。しかし、この授業の所属（高等教育推進）のように、この授業の存在を知らない人が多そうだと感じている。・・・他2名
- ◇ 時間通りに全員がそろおうということが無い時が幾度かあって、もう少し授業という意識をもてるように働きかけるよう改善すべきではないかと思った。
- ◇ 今のままで十分だと思います。

7. 「環境・生命・倫理」、「環境学と社会科学への招待」、「自然環境学概論」を含む環境学「副専攻」全体の感想等

- ◇ 他学域の学生や、子どもたちや両親など、通常の授業では出会うことが出来ない人と触れ、実社会の認知度などを知れてよかったです。でも、4つの授業がつながっていることは、あまり意識できなかったかなと思いました。
- ◇ 環境に対して倫理面、社会面、自然科学面からアプローチし、最後に実践という構成が良かったと思う。
- ◇ 環境問題について、自然科学、社会科学、人間科学の3つの側面からインプットを行い、環境活動演習でアウトプットを行い、体系的に環境問題を考えることができた。・・・他1名
- ◇ 環境に関して、知識・経験など包括的に学ぶことができた。
- ◇ 他の学域・学類の人と共に、環境について「大学生として」活動できる貴重なチャンスと、その土台になる大切なプログラムだと思います。3つの講座で、自分の中の環境に対する基礎知識と捉え方の見直しにつながり、必要な事前準備であったと思います。
- ◇ 専攻科目の内容が「環境活動演習」で活かすことができるものであったので、カリキュラムが良かったと感じました。
- ◇ 楽しかったが、現シスの授業内容と重なっている部分があった。
- ◇ 生物専攻であるのに、環境学習の時間や授業は全くありません。この学習を通して本当に学びたいことに近い知識を得ることができました。
- ◇ 講義で得た知識を演習で実践するという意識を活かす経験ができ、難しくも楽しめる授業形態だった。
- ◇ 副専攻科目を履修した事により、「環境」について様々な視点から、広く学ぶ事ができて良かったと思います。また、多くの事を学ぶ中で、一つの事を考えるにあたり、色々な事を関連して考える事ができるようになったので、知識だけでなく思考力も深まったと感じ、良かったです。
- ◇ 自分の専門以外にすごく良い経験になり、勉強しました。
- ◇ 講義で学んだことを実践するという形をとっているなので、段階的に学んでいけたので良かった。
- ◇ 履修はそれほど難しくなく、良かったのですが、一般教養の該当科目の数が少なく、もうすこし対象を増やしていただけたら良かったかなと思います。

- ◇ 自分が知るだけでなく、他の人へ知らせなければ環境学を学ぶ意義は半減するよう感じました。活動演習まで含めて、初めて一つの成果になるように感じたので、副専攻としての構造はとても効果的だと思いました。
- ◇ 他専攻の授業を受ける機会はほとんどないので、面白かったです。3回生になってから、環境活動実習を履修することも可能ですが、1年間のブランクがあると、知識が抜け落ち、まわりとのギャップも実感したので、特に他学域の学生は2年間連続して受講するべきだと実感しています。
- ◇ 環境という視点で、地域社会との関わりや生物などについて色々学ぶことができ、勉強になった。
- ◇ この3つの授業は、先生と学生との距離が大きく、うるさい。この3つの授業+この環境活動演習の関連性がなく、1個1個がバラバラだと思った。しかし、学類の勉強にはこの3つの授業は役に立った。
- ◇ 「環境・生命・倫理」については、この授業を受けたくてこの大学に入ったくらい、環境学や生命倫理についての授業が少ないので受けられて良かった。
- ◇ 全体を通じ、環境の意識向上はできたかもしれないが、実際に何をどうするのか？という点まで及んでいないのではと感じました。
- ◇ 実際に活動することはとてもよい経験になると思うので、上記3科目に関わらず、受講できるとよいのではないかと思う。
- ◇ 全ての授業を受けることで、社会的、化学、物理、生物、分野などにおける環境を学ぶことができた。
- ◇ 環境についての知識が深まりました。他のグループの発表を聞くのも面白かったです。・・・他1名
- ◇ 今まで考えることのなかった環境という点に、テスト、レポート、プレゼンテーションなど様々な方法で勉強できたなと思います。自分の環境の知識が深まったとは正直言えませんが、興味・関心は確実に深まりました。
- ◇ 少し授業中うるさくて、真剣に受けたい人々にとってつらいものだと思う。
- ◇ 「環境」というものがただの生物や地学の勉強だけでなく、もっと大きな観点で考えられているということに気付けた。

